

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290200981		
法人名	社会福祉法人幼老育成会		
事業所名	グループホームサクラ白木 ユニット1		
所在地	長崎県佐世保市白木町22番地		
自己評価作成日	令和5年11月8日	評価結果市町村受理日	令和6年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内
訪問調査日	令和5年12月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

力を入れているポイントは、まだまだコロナの中、家族と疎遠にならないように、窓越しによる面会や主治医と相談による家族との外出や外泊を行っています。医療面には経験豊富な看護師を雇用しており、利用者や職員の体調面でもサポートが行えるようにしています。今後のアピール指定と思っている点は、少子高齢化が進み、世帯数が減る地域の中で当施設が役割をもち貢献できるように地域の方と密接に出会える場を持ちたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、法人内小規模多機能ホームやその他高齢者施設と隣接し、緊急時には他職員の応援もあり、医療連携体制や看護師の常勤、理学療法士のリハビリなど健康管理も充実している。法人内の関連施設の受入れもあり、本人、家族等の安心に繋がっている。「まごころ」を理念と掲げ、全職員が優しい声掛けを行い、笑顔の絶えない温かいホームの様子から、理念の具現化が覗える。また、調理専門職員が作る利用者の好みや旬の食材を活かした食事は、利用者の楽しみとなっており、キッチンから漂う料理の匂いは食欲増進に繋がっている。介護計画には、本人、家族等の生の声を記し、思いに沿ったプランとなっている。毎月のホーム便りには、利用者毎にコメントを書き、家族等へ郵送し、またLINEや電話で家族等と気軽に話せる関係作りにも努めている。職員のチームワークも良好で、笑顔が絶えないアットホームな事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議の時や採用時に理念を共有し、各スタッフは理念を共有し実践している	理念の「まごころ」を基本に、利用者一人ひとりに寄り添い、愛情と真心こもった支援を行い、笑顔の絶えない楽しく温かい居場所を提供するとの心得を、全職員が理解している。本当の家族のように、利用者との距離感をなくして様子を見ながら、優しく声かけし支援しており、職員の姿勢に理念の具現化が見てとれる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナや感染症の病気があり、あまり活動できていない。回覧や、地域の清掃活動への参加は行っている。	自治会に加入し、回覧板や町内会長などから地域の情報を得ている。餅つき大会への誘いがあり、利用者も手伝いに行く予定である。高校生の職場体験学習の打診もある。住民から認知症の相談があり、介護保険の流れを説明するなど、地域に浸透している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナの対応で十分にできなかった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	開催ができず書面になってしまって、意見が取り入れられなかった	年6回、規定の参加者で開催しており、コロナ禍で書面会議が4回、対面開催が2回である。事業所の状況、取り組み、行事、事故報告が詳細な議事録で確認できる。家族代表も交代で参加し、要望で面会制限の緩和に繋がっている。ただし、参加者の明記が無く、書面会議では参加者の意見の戻りがほとんど確認できない。	参加者からの意見を集める方法の工夫と、今後の参考とするために参加者の明記が望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	いつでも参加できるように環境を整えている。なにかあれば相談ができるようにしている	申請や更新時、また報告など市の窓口に出向いている。市からの連絡は、メールが主であるが、担当職員の訪問もあり、相談しながら協力関係を築くよう取り組んでいる。市主催の研修は、勤務としてタブレットで参加し、研修内容の報告を行うことで職員間で情報共有している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行ったり、運営推進会議の中で報告を行い、課題があれば早期に対応したり、個々に合わせた対応をして拘束予防に努めている	身体的拘束等の適正化のための対策委員会は、運営推進会議を活用し、委員会メンバーが主となり定期的な研修や勉強会を3ヶ月毎に実施している。玄関の施錠は夜間のみで、職員のスピーチロックなども注意している。またセンサー使用は家族等に説明し、同意を得て検討を重ねている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日頃から、介護について話し合い、勉強会を行い虐待防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者様の事を理解し、必要性を理解している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者を中心として、入居者様と関係者様が納得できるまで説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	問題が生じた時点で施設全体で共有し、協議と検討を行っている	苦情処理は適正に処理し、申し出者に報告している。事業所では、コロナ禍を機に家族とのやり取りに事業所用タブレットを用い、ショートメールやLINEを活用している。また、毎月発送する請求書に一言箋で一言様子を知らせるとともに、白木便りも送っている。詳細に様子を知らせることで家族の理解を得ており、良好な関係を築いている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が意見を言いやすい環境を作っている	毎月の職員会議は、職員に事前に議題を伝え話しやすいように工夫している。朝の申し送り時に管理者と職員が会話し、利用者の支援を検討している。また、職員の要望を反映して、掃除機や車いす、給湯器などを購入している。法人の面談では事前にストレスチェックを行っており、悩みなどの相談にのる仕組みがある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各スタッフに合っ職場環境調整や雇用条件を行い対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や資格取得を推進している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナもありできなかった		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様や本人に確認し習慣や過去の事を聞き取りし、個人にあった介護を実践している		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人にとってどのような支援が大切なのか共に考えている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族様の要望にできる限りこたえられるようにしている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしを共にする者同士良好な関係ができるようにしている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様とは連絡を取り合い常に近況の情報を伝え、家族様からの要望に応えやすいようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナもあり対面の面会等はできなかったが、窓越し面会や電話など使用して、関係が切れないようにしていた。	事業所では、本人や家族の情報から利用者の馴染みの関係を把握している。コロナ禍以前はくんだりやよさこい踊りを見物して楽しんでいる。また、携帯電話を所持して家族に電話を掛ける利用者もいる。コロナ禍では、窓越しの面会であったが、徐々に通常の訪問に戻す予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性や性格を配慮している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	多系列に入居された場合でも情報の共有をしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、本人の希望に沿うようにスタッフと情報共有し、意思表示が難しい場合は本人本位で検討している	職員は日常的に利用者とコミュニケーションを図り意向を聞き取り、職員間で共有している。事業所では、本人の発言をケアプランに反映することを大切にしている。難聴の人は筆談で、表出困難な場合は家族からの情報を基に検討している。職員は、日誌に記す本人の言葉は色を変えてわかるように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族様や本人からの事前の聞き取りを行いサービスに努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフ間で情報を共有してその方の状況に応じたサービスの提供		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	常に、本人の情報を家族やスタッフと共有して望む暮らしの提供をしている	利用開始時の暫定プランは1ヶ月で見直し、状況により変更している。入退院時は、本人・家族の要望、医師や理学療法士、看護師の意見を入れ、現状に即したプランに変更している。プランに本人の生の声を記載することで、より思いがわかり易い。また、ケアプラン一覧表の作成があり、有効期間が一目でわかる工夫がある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	カルテや個別記録を活用して、履行表を作成し見直し等に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	支援の中で必要なサービスがあればスタッフ間で共有検討している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源は把握できているが、本人の力を発揮できるように支援ができていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医などのなじみの場所への診察は家族様協力のもと行ってもらっている	以前からの受診継続は、家族が同行している。月2回の協力医の受診と訪問看護の他、月1回理学療法士のリハビリもある。必要に応じ歯科医の往診は月2回ある。受診結果は家族、職員が情報共有している。急変時の対応も協力医の指示で、適切な医療受診ができています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が勤務しており病院関係者や家族様との情報を共有し、適切な治療ができるようにしている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された場合は病院関係者や家族様と情報の共有をし、入居者様が望む方向に回復できるように支援している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師や看護師、介護職多事業所と連携して、家族様と本人の意向に沿うようにしている	重度化した場合の対応に係る指針と、看取りに関する指針があり、利用開始時に説明し同意書を得ている。事業所での看取りは、支援する体制が整っていないことや夜間帯に看護師が不在のため、これまで事例はない。ただし、看取り指針の文面が看取りを行うか否か明確でなく、家族等にとってわかりづらい文書となっている。	利用者が重度化した場合に、家族が慌てないように看取り支援の指針を、わかりやすい文面に検討し、取り組むことに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や異変があった場合はマニュアルの整備をしているが、障害を持ったスタッフもいるためその為の、指示助言はしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	マニュアルの作成と、年に2回の避難訓練の実施	火災避難訓練は昼間想定で、職員が利用者役になり、2階の階段を運ぶ訓練を実施している。事業所には、食料や飲料水などの備蓄、持ち出しファイルの準備がある。ただし、自然災害の避難訓練、夜間想定での訓練、また自動通報装置の職員登録はこれからである。	災害時の具体的な避難策を検討し、訓練の回数増と通報装置の職員登録が望まれる。また、消防署に訓練立会いを依頼し、専門的な視点での助言を得ることも期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に振り返りの機会を持つ必要があり、個々に合った声掛けを行っている	職員は、苗字にさん付けで利用者と呼ぶこととしており、本人が名前を好む時にはさん付けのこともある。失敗時には周囲に気づかれないようにさりげなく声を掛け誘導し、支援している。個人情報にかかる文書は所定の場所に保管するとともに、職員は守秘義務の誓約書を提出している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様のペースに合わせて無理のない環境を作って、過ごしやすい環境を作っている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の生活リズムに合わせ、それに合わせた支援を心がけている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に合わせ、本人様の好きな服を用意したり、美容師に来てもらっている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理担当が献立に合わせた料理の提供をしている。下膳や食器拭きなどではできる利用者の方は行ってもらっている	各ユニットに調理担当職員を配し、献立は協力して作成している。本人の嚥下状態で、キザミ食やミキサー食を提供している。正月の三が日はご馳走を献立する他、行事食も利用者の楽しみとなっている。誕生日は本人のリクエストに応じている。おやつには、ホットケーキを焼いたり、たこ焼きパーティなどもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の確認している。利用者に合わせて食事形態で提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面台へ誘導して口腔ケアができる方はしてもらっている。歯科医に月2回、緊急時に往診に来てもらっている		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の時間を把握し声掛けを行い、トイレ誘導を行っている。利用者様からの訴えが難しい方は2時間おきに声掛け誘導を行っている	利用者には自らトイレに行き排泄する人がおり、尿意がある人が多い。そのため、布パンツにパッド、リハビリパンツなど本人の状態に合わせて支援している。夜間のみポータブルトイレを利用する人もおり、居室に臭いがこもらないように都度洗浄している。パッドのサイズは本人の様子を見ながら検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	十分な水分量の摂取を行い1日2回体操を行っている。排泄チェック表を活用し、下剤や内服薬を活用。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週二回の入浴の提供を行っているが拒否があったりしてできない時もあり利用者様のタイミングを伺い行っている	事業所では、週2回の入浴を支援している。利用者によっては、好みの化粧水等を使用している。入浴しない日は、更衣や清拭で対応しており、清潔を保持している。入浴拒否の場合は、時間を置いたり、人を替えて声掛けするなど工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間良質な睡眠ができるように日中の活動を多くし、生活リズムをとるようにしている。また、臥床時は本人の了承を得るようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の漏れや誤薬投与のないように職員間での声出しダブルチェックを行っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	時々であるが、洗濯物をたたむことを手伝ってもらっている。一人一人の生活歴や得意分野を把握しできることをおこなってもらっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響もあり外出ができていない	コロナ禍であっても、利用者とコスモス見物や神社にドライブしている。車中から桜を見に出かけ利用者に喜ばれている。ドライブは福祉車両を利用し、車いすの利用者も一緒に出掛けている。天気の良い日は、近辺を散歩して戸外の空気に触れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所預かりにて対応している。買い物代行支援を行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様からの連絡があった場合は取り次いでいる。近況の報告は電話等で職員が行っている		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境調整を行って、季節に応じた張り紙をしている	リビングでは、元気にテレビ体操を行ったり、ゴミ袋作りや新聞チラシに熱中したり、活気に溢れ、好きなことや得意なことが自由にできるよう職員が支援している。室内の飾り付けは程よい季節感がある。また、調理する音や匂いが家庭的であり、職員による掃除や換気、温度、湿度管理で清潔を保持し、居心地よく過ごせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士の間関係を見定め必要に応じて席替えを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様やご家族様へ了承を得て、写真や馴染みのあるものを持ってきていただき飾り付けしている	居室はベッドとクローゼットの設置があり、テレビや整理タンス、見やすい時計、本、家族等の写真、ロザリオなど馴染みの愛用品の持ち込みには、個性がある。家具は本人の状態に合わせた配置となっている。窓から中庭が見え、陽当たりもよく、職員が掃除や換気を行い、清潔でゆっくり自由に寛げる居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様に合わせながら自立した支援ができるようにする		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4290200981		
法人名	社会福祉法人幼老育成会		
事業所名	グループホームサクラ白木 ユニット2		
所在地	長崎県佐世保市白木町22番地		
自己評価作成日	令和5年11月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/42/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構		
所在地	長崎県長崎市宝町5番5号HACビル内		
訪問調査日	令和	年	月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

外出の機会を設けて、自宅のような雰囲気では生活できるようにしたい。現在の健康状態を維持して住み慣れた場所で末永く暮らせるように支援したい。現在、コロナ禍を越え、希薄だった家族様との交流を増すため、施設と家族様が協力し合えるよう、細かい要望に応えたりして、本人の気持ちや家族様の気持ちになって考えるようにしています。利用者様の事は施設関係者の者だけではなく、家族様との協議の上で介護や医療サービスの提供を行っています。家族様との関係を深くするようにしたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念を職員で共有し、実践できるよう努めている		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	以前、町内会の行事に参加していたが、コロナ禍で現在できていない。市民清掃の参加はできている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	理解や支援の方法はコロナ禍もあり十分にできなかった		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	状況報告をし話し合いをしている		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	事業所と市町村とは、協力関係を今まで以上に築いていくように努めている		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員同士で話し合い勉強会を行い繰り返し実践と勉強している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	常に職員間で注意しあい防止に努めている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会会議の機会を作り学ぶ場を設けている。問題がある場合は問題提起として情報共有している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様や本人の不安や疑問を聞き、管理者、施設職員を交え説明を行っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様とのコミュニケーションをとりながらおこなっている。説明が必要場合は管理者や副主任へ報告行っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者、職員同士で話し合い会議の場を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	故人に合った労働時間や力量を考えた環境・条件で働けるように努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	勉強会をもったりその時の議題に応じた資料を作成し職員のスキルアップをしている。研修や資格取得を進めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉用具の方や、他施設の方と話をしている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	知らない環境は不安が強いと認識し安心して入居生活ができるよう信頼関係を築くことに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望をできる限り傾聴し、状況の報告を細かく行うようにしている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	各利用者様に友好関係を築くように心がけている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自身の勉強となることもあり、一緒に暮らすことで分かり合うことがある		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の方が安心して生活できるように、家庭での生活歴を伺ったりして本人の希望に近づけるように努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	窓越しの面会や、テレビカメラでの会話ができるように支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で利用者同士のパブ役となり親しく関わられるように支援している		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様とはサービスが終了しても相談があれば相談を受けている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様の好きなことを把握して、希望に沿うようにしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	情報シートを活用している 日々の会話の中でもヒントが隠されているため常にアンテナを張っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、健康状態の把握と診療所との連携がある 本人のできることをしてもらっている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各スタッフが担当となり、計画作成担当者として話をし多職種とも連携して介護計画を立てている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	少しの変化でも記事として残し、職員間での共有を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	都度、ケアプランの更新に反映させたり、家族様や利用者様の要望に沿えるようにしている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、コロナの影響も薄れているが、まだまだ脅威があり、外出や地域との交流が少なくあまり実践できていない		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿い受診を行ったり、施設の担当主治医の往診で対応したり、特変時の対応も行っている		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携病院や入院時にはその方の情報を開示し連携している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	些細なことでも相談し、診療所と事業所との連携を行い、指示や処置をしていただいている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	常に家族様や担当医と連携して、早期に状況説明している。入居時には、先の事まで安心できるように話している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昼夜、診療所と連携し 事業所担当看護師とも話をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	避難訓練を行い、消防の研修にも参加している		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	心がけているがたまに強い口調が出てしまうことがあり反省しているそうならないように努めている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決めつけてしまわず、本人に尋ねて支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示がない方にも意見を伺うようにしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	整髪や整容には気を付けている 服装に気を使われる方にはアドバイスを受けている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方に合った食事形態を提供している 食器拭きなど手伝ってもらっている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々チェックシートを用い必要な量を提供している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月に2回の歯科医の往診があり、歯科医からの口腔ケアの指導書がある		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の訴えがない場合は2～3時間おきにトイレ誘導をしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操を行ったり、薬に頼らず食事や飲み物で対応している		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	スタッフの人数に応じて入浴をしているが、不可能な日もあるが週に2回は入浴ができるようにしている		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調に合わせて日中夜間問わず休息の時間をとるようにしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての薬の効能等は理解できていないが症状の変化には細かく気付くようにしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	1か月に1回は楽しめるように行事を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナで全員は難しいがスタッフの人数が多いときや天気がいい日には外に出るようしている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事業所で預かり金として対応している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	字が書ける利用者の方は手紙を書いていただき毎月の手紙と一緒に送付している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、清掃をして清潔に保ち不快ないようにしている 行事や季節に応じた飾り付けを行っている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室でくつろがれたり、ソファに座り会話を楽しんでいたが、自由に過ごされている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを配置し、ベッドメイキングもきれいにしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には物を置かず手すりを活用できるようにしている 気づいたことは話し合い、出来ることはできるようにスタッフの見守りのうえ行っている		